

平成30年度 学校評価実施報告書

学校名 (京都市立西京極中学校)

教育目標	校是「自立と貢献」 学校教育目標「明るく、正しく、たくましく」		
年度末の最終評価	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="165 521 209 701">自己評価</td><td data-bbox="225 521 1426 1081"> <div data-bbox="225 521 791 555">教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</div> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導面では、各種の調査やテストでも成果を挙げている。次年度で授業研究にもさらに力を入れ、アクティブラーニングを取り入れた授業を増やしていきたい。 ・「しなやかな道徳」を研究・実践することにより、授業そのものと評価のレベルアップを図った。評価についてもさらに磨きをかけていきたい。 ・生徒指導面でも、全校集会はもとより生徒会主催の生徒集会でも落ち着いた雰囲気が開かれており、全校合唱など感動的な場面が見られてきた。今後も生徒の自主的な力の育成や学校に貢献する生徒を増やしていきたい。 ・課題のある生徒も多く、関係機関とも相談しながら、総合育成支援教育を進めているが、さらに適切な指導をはかるため、教員一人一人のレベルアップが必要である。 ・小学生と中学生が連携する場面が増えてきた。またそのことにより、「つながり」が多くの場面で見られるようになった。今後も継続していきたい。 </td></tr> </table>	自己評価	<div data-bbox="225 521 791 555">教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</div> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導面では、各種の調査やテストでも成果を挙げている。次年度で授業研究にもさらに力を入れ、アクティブラーニングを取り入れた授業を増やしていきたい。 ・「しなやかな道徳」を研究・実践することにより、授業そのものと評価のレベルアップを図った。評価についてもさらに磨きをかけていきたい。 ・生徒指導面でも、全校集会はもとより生徒会主催の生徒集会でも落ち着いた雰囲気が開かれており、全校合唱など感動的な場面が見られてきた。今後も生徒の自主的な力の育成や学校に貢献する生徒を増やしていきたい。 ・課題のある生徒も多く、関係機関とも相談しながら、総合育成支援教育を進めているが、さらに適切な指導をはかるため、教員一人一人のレベルアップが必要である。 ・小学生と中学生が連携する場面が増えてきた。またそのことにより、「つながり」が多くの場面で見られるようになった。今後も継続していきたい。
自己評価	<div data-bbox="225 521 791 555">教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</div> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導面では、各種の調査やテストでも成果を挙げている。次年度で授業研究にもさらに力を入れ、アクティブラーニングを取り入れた授業を増やしていきたい。 ・「しなやかな道徳」を研究・実践することにより、授業そのものと評価のレベルアップを図った。評価についてもさらに磨きをかけていきたい。 ・生徒指導面でも、全校集会はもとより生徒会主催の生徒集会でも落ち着いた雰囲気が開かれており、全校合唱など感動的な場面が見られてきた。今後も生徒の自主的な力の育成や学校に貢献する生徒を増やしていきたい。 ・課題のある生徒も多く、関係機関とも相談しながら、総合育成支援教育を進めているが、さらに適切な指導をはかるため、教員一人一人のレベルアップが必要である。 ・小学生と中学生が連携する場面が増えてきた。またそのことにより、「つながり」が多くの場面で見られるようになった。今後も継続していきたい。 		
学校関係者評価	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="225 1099 624 1133">学校関係者による意見・支援策</td><td data-bbox="261 1144 1426 1417"> <ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の高い生徒が多いように感じている。 ・全体として落ち着いていると感じている。 ・「自分が好き」という印象は、今も続いている。 ・地域での生徒の様子は、心配するような行動を見かけることは、ほとんどない。 ・明らかに顔見知りであっても自分から「あいさつ」する生徒が少なく、地域の方が「あいさつ」しても返ってこない場面がある。積極的な指導が必要だと感じている。 </td></tr> </table>	学校関係者による意見・支援策	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の高い生徒が多いように感じている。 ・全体として落ち着いていると感じている。 ・「自分が好き」という印象は、今も続いている。 ・地域での生徒の様子は、心配するような行動を見かけることは、ほとんどない。 ・明らかに顔見知りであっても自分から「あいさつ」する生徒が少なく、地域の方が「あいさつ」しても返ってこない場面がある。積極的な指導が必要だと感じている。
学校関係者による意見・支援策	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の高い生徒が多いように感じている。 ・全体として落ち着いていると感じている。 ・「自分が好き」という印象は、今も続いている。 ・地域での生徒の様子は、心配するような行動を見かけることは、ほとんどない。 ・明らかに顔見知りであっても自分から「あいさつ」する生徒が少なく、地域の方が「あいさつ」しても返ってこない場面がある。積極的な指導が必要だと感じている。 		

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月17日(水)	学校運営協議会 理事
最終評価	2月13日(水)	学校運営協議会 理事

(1)「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

重点目標	校是「自立と貢献」に向け、自ら学ぶ生徒を育てる。
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○年間2回の「研究授業週間」を設け、日々の授業改善のきっかけとする。 ○朝読書や教科指導、他の領域において、語彙力、読解力、表現力の向上を目指す。 ○各授業において、目標を明確にするとともに、振り返りをおこなう。 ○少人数グループ活動等においても、主体的、対話的で深い学びの機会を工夫する。

<p>○週末課題の取組を通し、土日の家庭学習習慣を確立させ、基礎基本から教科横断型の活用的な課題まで取り組む機会を与える。また、家庭学習が定着しにくい生徒の補充学習（週1回程度）の充実を図る。</p> <p>○連絡ファイルの取組を通し、スケジュール管理能力を上げるとともに、課題、持ち物、提出物を確実にこなす力をつけることで自己肯定感につなげる。</p> <p>○小中の授業交流をはかり、9か年を見通した学力向上を図る。</p> <p>○「つながる」楽しさを感じ、「自立と貢献」に向けた学びの時間を充実させるため、カリキュラムマネジメントを進める。</p>
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して学習の基本的な知識が身についたか ・家庭学習の習慣が身についてきたか ・読書に親しむ習慣が身についてきたか

中間評価

各種指標結果	
・3つの指標について、どの項目も成果が見られる。	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週末課題、連絡ファイル、ミニ学習会、朝読書などを3年間続けた学年の全国調査の分析において、複数の項目でポイントが改善している。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去に研究テーマとしていた「学び合い」についても、全教科で増やしていきたいと考えている。また、ホワイトボードやバインダー等も購入し、学習環境をさらに改善し整えていきたい。 ・「わかる楽しさ」「活かす楽しさ」「つながる楽しさ」を感じられる授業を提供するため、研修や取組を継続したい。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して学習の基本的な知識が身についたか ・家庭学習の習慣が身についてきたか ・読書に親しむ習慣が身についてきたか
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートや全国調査の結果が昨年に比べてポイントが改善していることは、評価できる。先生方の努力の成果だと思うが、これからも努力を続けてほしい。 ・学習環境は大切なので、金銭的ことをクリアして、必要ならホワイトボードやバインダー等を、早急に購入してほしい。 ・スマホやゲームの時間が多いと感じる。いろいろな場面で啓発を繰り返ししてほしい。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・3つの指標について、どの項目も成果が見られる。 ・学習環境が年々整い、生徒の学習意欲、学習習慣ともに向上している。 	
自	分析（成果と課題）

己 評 価	<ul style="list-style-type: none"> 週末課題、連絡ファイル、ミニ学習会、朝読書などを3年間続けた全国学力学習状況調査の分析において、複数の項目でポイントが改善している。学習確認プログラムの結果においても、数年前は全国平均とはかけ離れていたが、現在は全市平均を越えている。新学習指導要領を見据え、「つながる大切さ」を生徒に感じさせられるよう全教科がどのようにお互いにつながっているかをまず教員が認識できるようにし、共通理解をはかり、各授業で活かせるように独自のカリキュラムマネジメントを行った。
	<u>分析を踏まえた取組の改善</u> <ul style="list-style-type: none"> 過去に研究していた「学び合い」についても、対話的で深い学びにつながるよう全教科で増やしていきたい。そのため、教室設置用のホワイトボードと関連グッズを購入し、1年生全クラスに配布した。来年度以降、2年・3年と整備し、ポスターセッション等がよりスムーズに行えるようバインダーも増やしていきたい。
	<u>重点目標の達成状況、次年度の課題</u> <ul style="list-style-type: none"> 重点目標の達成に年々近づいていることを生徒の日々の様子からも実感できる。現在までも増やしてきたが、今後も教員間の授業交流や学習指導について交流できる機会を工夫して増やしていきたい。 学校として、さらに働き方改革を推進することで、学習指導の研究に関わる時間を、十分に確保していきたい。
学 校 関 係 者 評 価	<u>学校関係者による意見・支援策</u> <ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートや全国調査の結果が昨年に比べてポイントが改善していることは、評価できる。生徒や先生の努力の成果だと思う。これからも努力を続けてほしい。 学習環境は大切なので、金銭的ことをクリアして、必要ならホワイトボードやバインダー等が、全クラスで、同じように授業が進められるようにして欲しい。 学習状況が好ましくない状態の家庭も多いと聞く、家庭学習の課題も一人で意欲的に取り組めるようなものに改善して行ってほしい。 読書をする習慣はまだ身についていないので、本が好きな生徒が増えるような有効な取り組みをして欲しい。

（２）「豊かな心」の育成に向けて

<u>重点目標</u> 特別の教科道徳での道徳教育と各教科での道徳教育との連携により、道徳的価値を深める指導の充実
<u>具体的な取組</u> <ul style="list-style-type: none"> ○<u>教科指導の中での道徳教育と道徳の時間の関連を深め、学校全体として道徳教育が活性化するよう年間指導計画を立てる。</u> ○中学校ブロックの「育てたい児童・生徒像」から、各校が共通の重点内容項目を設定できるよう、道徳推進教師等が定期的に情報交流するとともに、小中合同夏季合同研修会で各校の取組状況を中間報告する。その際、中学校ブロック共有の重点内容項目についての指導に焦点を当て、小中合同で教材開発についての検証を行う。 ○学級活動や生徒集会、文化祭や体育祭などにおいて、一人一人の生徒が道徳的実践力を育成する場となることをねらいとして企画運営する。 ○取組を推進することで、「折り合いをつける力」を育てる。
<u>（取組結果を検証する）各種指標</u>

- ・道徳や学級活動・行事などを通して、自分自身の心の成長が見られたか
- ・クラスや学年など、学校内の様々な集団で人権を大切にする雰囲気が高まってきたか

中間評価

自己評価	各種指標結果 <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の評価をするにあたって、生徒に振り返りのワークシートを記入させたことで、生徒は客観的に自分を見ることができ、心の成長につながった。また、教員も同様に、生徒の文面や聞き取りなどを行うことにより、成長を感じる機会となった。 ・学年目標や道徳の重点目標を共通理解することにより、学級活動や体育祭、文化祭などを通して、生徒一人一人を大切にする場面が多く見られた。
	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の教科化に向けての取組として行った評価において、教員の指導力向上が見られた。副教材を利用することで、読み物教材に対する指導の工夫が見られた。研修会や学年会を通して、道徳授業での取り組み方や生徒の反応などを共通理解する機会が増えたことが成果として挙げられる。 ・7月での保護者への道徳評価の提示では、保護者から一定の理解を得られ、生徒の心の成長を伝える良い機会となった。 ・保護者の“道徳の評価”に対する認識にバラつきがあることから、保護者への説明が必要だと感じた。今後、どのように説明する機会をもつのが課題である。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・道徳授業での指導の工夫などを発表する場を設けることにより、学校全体の指導力の向上を図る。また、生徒の心の成長を学年で共通理解することで、生徒一人一人の成長を学年の教員で育てる環境を作る。 ・道徳の評価を保護者に提示する際に、どの教員も説明できるよう、研修会などで共通理解を図る。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・道徳や学級活動・行事などを通して、自分自身の心の成長が見られたか ・クラスや学年など、学校内の様々な集団で人権を大切にする雰囲気が高まってきたか
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・体育祭や文化祭などで生徒の一生懸命の姿を見た。その姿を認めて自信をつけさせて欲しい。そのことが生徒一人一人の自尊感情へつながればと思う。 ・こどもは家族の中で育つもの、親とこどもとの会話が増えればと思う。 ・しなやかな道徳の研究発表会に行きたいと思う。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果 <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育として設定している重点内容項目を意識することで、道徳の時間での道徳教育と学習活動や学級活動、行事における道徳教育とを関連づけながら、生徒の心の成長を見取ることができた。 ・学期末ごとに振り返りシートを行ったことで、定期的に生徒が自分自身の心を振り返ることができ、学校内の様々な集団で人権を大切にしようとする雰囲気を作ることができた。
--

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究発表会に向けて、教科の授業の中で学んだ内容（学んだ力）を生かし、どのようなねらいで道徳的価値にせまるか、ねらいと中心発問を授業者と学年、そして道徳主任、道徳推進教師とで検討を重ねることができた。 ・日本文教出版『あすを生きる』を副読本として活用し、読み物資料での道徳の授業を行った。授業実施時にはねらいを板書やワークシートに提示し、ブレない授業を行うことができた。 ・学期ごとの振り返りシートを実施することで、生徒の成長のようすを見取ることができた。そこで見取れた成長を、保護者に提示することができた。 ・道徳の教科科に合わせて、今年度の成果を、次年度にどのように反映させるかの検討をする必要がある。 ・保護者への提示の仕方や道徳の評価についての認識等の共通理解を図り、保護者対応をどのようにしていくかを検討する必要がある。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳授業における道徳的価値への理解、ねらいに合った中心発問の検討などを研修する場をできるだけ多く設ける。 ・学級活動や生徒集会、文化祭や体育祭などにおいて、一人一人の生徒が道徳的实践力を育成する場となることをねらいとして、今年度の授業成果を活かし企画運営する。 ・中学校ブロックで定期的に情報交流するとともに、小中合同で教材開発についての検証を行う。
	<p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別の教科道徳での道徳教育と各教科での道徳教育との関連表を作成し、指導が関連付けられる授業の提案を行った。そのことにより、道徳的価値を深める指導の充実を図ることができた。 ・今年度実施した授業で、効果的に道徳的価値を深めることができたものを次年度に引き継ぐとともに、新たに使用する教科書を用いて、同様に関連性を検討する。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域での生徒の様子は、心配するような行動を見かけることは、ほとんどない。 ・一人一人の生徒が大切にされていると感じている。 ・登下校のときは、小学校の見守り隊など、明らかに顔見知りであっても自分から「あいさつ」する生徒が少なく、地域の方が「あいさつ」しても返ってこない場面がある。積極的な指導が必要だと感じている。

（３）「健やかな体」の育成に向けて

<p>重点目標</p> <p>生涯にわたって自らの健康をコントロールし、改善していく力の育成</p>
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康診断、健康観察、保健室情報等を根拠とした健康教育の推進。 ・社会的資源を活用したり、生徒会活動とリンクさせたりした健康教育の推進。 ・キャリア教育、道徳、人権教育、ライフスキル教育、安全教育、情報教育等と関連付けた健康教育の推進。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報活動を通じて、保護者や地域と連携した健康教育の推進。 ・ 外部人材を活用した、健康委教育・安全教育・防災教育の推進。
<div>（取組結果を検証する）各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつ、時間、掃除など規律正しい学校生活を心がけるようになってきたか ・ 健康なからだづくりのため、規則正しい生活習慣を心がけるようになってきたか

中間評価

<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつについては、好感もてるあいさつができるようになってきた生徒がふえている。 ・ 規律正しい生活習慣については、学校評価アンケートのポイントは上がっている。 	
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防煙教室、薬物乱用防止教室、性教育など、各種の健康教育を計画通りに実施することができた。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度当初の予定通り、各種の健康教育を計画通りに実施していく。
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつ、時間、掃除など規律正しい学校生活を心がけるようになってきたか ・ 健康なからだづくりのため、規則正しい生活習慣を心がけるようになってきたか
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校全体として落ち着いていると感じている。 ・ 文化部も運動部も、一生懸命の姿が見られる。 ・ 薬物の使用を防ぐ一つの方法として、こどもに高額のお金を持たせない、ということも考えていこう。 ・ こどもをいつも大切にしている気持ちを、常に伝えるようにしている。

最終評価

<div>中間評価時に設定した各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「あいさつ」については、学年の先生などよく知っている先生には、気持ちのよい「あいさつ」ができる生徒が増えてきているが、あまり知らない人への「あいさつ」は課題が残っている。 ・ 遅刻者が減ってきていることやベル着を守る生徒が増えていることなどから、規律正しい生活習慣が向上してきている。 	
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保健室カードを利用することにより、生徒による保健室利用のリアルタイムでの把握をし、担任と保健室とが、適切な連携がとれるようにしている。 ・ 健康教育の取組や保健の授業などにより、規律正しい生活習慣の向上が見られた。 ・ インフルエンザの流行し、学級閉鎖の対応も行った。感染予防の効果のある具体的な取り組みに課題が残っている。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染予防に対して、教室の換気・うがいの励行・マスクをつけること・無理をせず早めに家で体を休めることなど、啓発活動を行ったが、効果的ではなかった。 ・ 薬物乱用防止教室などで学んだことを、保健だよりなどで継続して啓発活動を行った。

	重点目標の達成状況、次年度の課題 <ul style="list-style-type: none"> 他校の成功例など参考として、保健主事・保健室・保健委員会が連携し、効果的な取り組みを進めていきたい。 外部人材を活用して、自転車教室などを推進したい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> 消防署と地域の消防団の協力のもとで、3年生に対して行う「普通救急救命講習」は継続して欲しい。地域の消防や防災で活躍している方と「つながる」ことがきでる有意義な取り組みととらえている。将来、地域社会に貢献する可能性を広げたい。

（４）学校独自の取組

重点目標 <ul style="list-style-type: none"> ●小中一貫教育 ○一人一人の児童・生徒が自分の成長に自信を持ち、他者の成長を認め、仲間とともに学び、競い合い、成長し合うことで、生涯にわたって学び続ける意欲を培う。 ○地域や社会の一員として貢献しようとする姿勢を育てる。 ●秩序ある学校生活を送る中で、次のような子ども像を目指す。 ○自他を大切にする児童・生徒 ○楽しく学び、じっくり考え、しっかり行動できる児童・生徒 ○困難に対し、粘り強く立ち向かおうとする児童・生徒 ○社会に目を向け、人の役に立とうとする児童・生徒
具体的な取組 <ul style="list-style-type: none"> ○月１回の小中合同定例会（校長会・教頭会・教務主任会・研究主任会）を持ち、それぞれの立場から９年間を見通した取組についての検討を進める。 ○夏季休業中に小中合同研修会を持ち、西京極中学校区小中一貫教育の在り方について検討する。 ○「中一ギャップ」の解消に向け、体験授業や生徒会本部役員による中学校説明会を行う。 ○小学校児童会と中学校生徒会の協働の取組を進める。 ○相互の授業を参観し、９年間のスパンでの授業改善に取り組む。
（取組結果を検証する）各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・日頃のあいさつや地域の行事への参加など、地域の人と関わるようになってきたか

中間評価

	各種指標結果 <ul style="list-style-type: none"> ・日頃のあいさつについては、成果を上げているが、地域行事への関りについては、ポイントを下げている。
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・小中合同研修会で、さらに踏み込んだ成果を取組に生かしていくことを確認した。児童会・生徒会で共通のテーマを設定し、取組を進めることを一歩踏み出している。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・来年度の夏休みのリーダー講習会で、児童会と生徒会が協力して何ができるかを検討し、準備していく。

	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃のあいさつや地域の行事への参加など、地域の人と関わるようになってきたか
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事へは、どうしても管理職中心の参加になっているが、餅つき大会などの中学生の姿を見ると、頼もしく感じている。中学生もぜひ積極的に参加してほしい。 ・桂川や天神川の清掃活動には部活動単位で参加しているが、今年は公式戦と重なった部活動が多く、参加が少なかった。 ・各学区の夏祭りでは、中学生の姿が多くみられたが、子どもらしい姿が多くみられた。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活委員会によるあいさつ運動も定着し、「あいさつ」も少しずつ増えてきている。 ・地域行事への参加はあまり伸びてきていない。
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の教員が中学校の英語の授業を参観したり、中学校の英語科の教員が小学校の英語の授業を参観したり、と小中連携がまた一歩推進している。 ・「しなやかな道徳教育研究事業」を西京極中ブロックの4校で推進することにより、4校の道徳教育の全体としてレベルアップが進んだ。道徳の授業のそのもののレベルアップはもとより、ワークシートの「自己の振り返り」を共同研究することで、小中の一貫した道徳教育が展開されるようになってきた。また、柴原氏の講演を4校で聞くことにより、多くの道徳教育についての共通理解が深まった。道徳の評価についても大きく進歩した。 ・西京極小学校と西京極中学校の音楽部が、「もうひとつの京都合唱コンクール」に合同で参加し、銀賞に輝いた。長年にわたる交流の成果だととらえている。 ・バスケットボール部、卓球部など部活動の交流も行っている。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しなやかな道徳でできた、道徳教育担当教員の「つながり」を単年度で終わることなく、継続していきたい。 ・英語教育についても、さらに効果的な交流を進めていきたい。 ・部活動の交流についても、部活動ガイドラインを踏まえながら、適切に対応していきたい。 <p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間とともに学び、共に成長し合い、学び続ける意欲については、一定の成果をあげてきている。地域や社会の一員と貢献しようとする生徒は、一部は大きく高められたが、その人数はまだ多くない。 ・夏季小中合同研修をさらに有効な研修として工夫したい。またその後の実践交流をさらに深めていきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事に参加している中学生は、規範意識も高く、あいさつもしっかりとできるが、少し消極的な面もある。 ・参加人数はもっとふえて欲しい。 ・ボランティア精神のある生徒も多く、何か貢献できることはないかと考えている生徒が少なからずいることは、大変ありがたいと感じている。

